

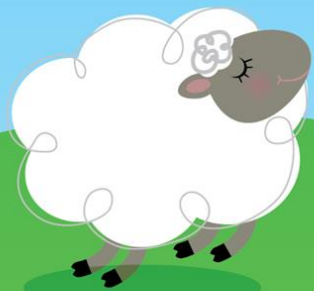


社会福祉法人名張育成会

いが児童発達支援センターれいあろは

“れいあろは”とはハワイの言葉で、

“leialoha=愛おしい我が子”という意味があります。



児童発達支援事業 支援プログラム（公表）

児童発達支援事業所は、令和6年度の報酬改定におきまして『領域を含む総合的な支援を提供すること』が基本になりました。

作成日：令和7年1月10日

支援プログラム作成について



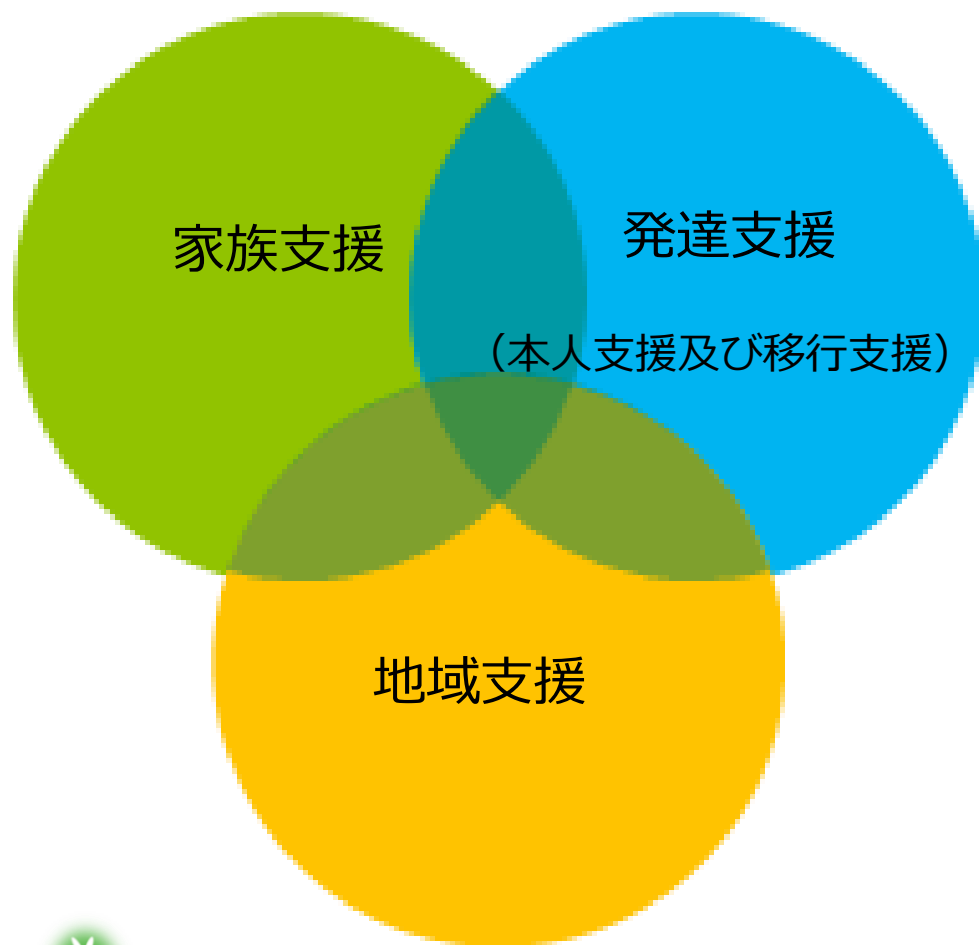
お子様**ひとりひとり**の状況や状態を観察、把握し、お子様の『**育つ力**』に沿った支援を行います。

れいあるはでは、お子様ひとりひとりの“**好き**”に寄り添い、『育つ力』の土台になる、**基本的な生活習慣、運動遊びや感覚遊びを中心**に活動を提供しています。

お子様にあった支援を提供するために、それぞれに児童発達支援計画を作成し、計画に基づき支援をしています。また、状況や状態の確認を行い、定期的に児童発達支援計画の見直しを行っています。



3つの支援



れいあろはでは、5領域に基づく保育プログラムを組み合わせ、多職種協働でお子様に活動を提供しています。

5領域はそれぞれが個々に発達するのではなく、相互に関連し合い、重なり合っています。



5領域のねらい



健康・生活

- ・健康状態の維持・改善
- ・基本的な生活スキルの獲得
- ・生活リズムや生活習慣の形成

運動・感覚

- ・姿勢と運動・動作の向上
- ・姿勢と運動・動作の補助的手段の活用
- ・保有する感覚の総合的な活用

認知・行動

- ・認知の発達と行動の習得
- ・空間・時間、数等の概念形成の習得
- ・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

言語

コミュニケーション

- ・言語の形成と活用
- ・言語の受容及び表出
- ・コミュニケーションの基礎的能力の向上
- ・コミュニケーション手段の選択と活用空間・時間、数等の概念形成の習得

人間関係
社会性

- ・他者との関わり（人間関係）の形成
- ・自己の理解と行動の調整
- ・仲間づくりと集団への参加



理念

ありのままの**キミ**がいい

その子のありのままを受け入れ愛おしいと思う。
子どもが主役となれる未来を。

支援方針

1 自分が好き

安心安全な場所で自分を表現する力を育みます。

2 あそびが好き

五感を通して様々な経験をし、あそぶ力を育みます。

3 みんなが好き

生まれてきてくれたことが素晴らしく、無条件に愛されることで人を信じる力を育みます。

子どもの姿

自分を**信じられる**子ども。

「やってみたい」を育て、**思いっきり**あそぶ子ども。

ひとりでできなくても、**みんな**でやってみる子ども。



れいあろはについて



営業日

月曜日から金曜日

- ※ 行事等の場合は土曜日開所あり
- ※ 祝祭日、夏季休暇（8月13日～8月15日）
日年末年始（12月29日～1月3日）を除く

営業時間

サービス提供時間 9時～16時

（営業時間は8時30分～17時30分）

送迎

自宅、保育所（園）、幼稚園、託児所への送迎あり

- ※ 各送迎車に『置き去り防止装置』設置あり

給食

あり（1食300円）



れいあろはの支援内容

5領域との関連性を明確にした発達支援プログラムを作成し、プログラムを実施します。



健康・生活

体を十分に動かし、楽しく食事をする事で、健康的な体作りのための土台を構築していきます。

生活場面では『心地よさ』や『自分でやりたい』などの気持ちを大切に、1人1人の子どもに合わせた環境を整え、支援します。



運動・感覚

子どもの興味や関心に合わせた運動遊びや感覚遊びを行い、十分に体を動かしていきます。遊びを通して様々な感覚を刺激したり、様々な姿勢を経験したりすることで、体作り（バランス感覚、力加減など）を行います。



認知・行動

遊びを通して、様々な形・色・音・重さに触れ、子どもが感じた感覚に共感しながら活動します。また子どもが自ら遊びを変化させたり、創造を膨らませたりできる環境を整え、実体験を通して様々な気づきを増やせるようにしています。



言語 コミュニケーション

視線や表情、身振り、言葉など子どもの様々な表現を受け止め、丁寧に関わります。自分の気持ちが伝わった経験を重ね、『もっと伝えたい!』『伝わるって心地いい!』という気持ちを育てていきます。聞く、見る、体験してみる等、1人1人に合わせた方法で、子ども自身が分かる実感が持てる機会を増やしていきます。



人間関係 社会性

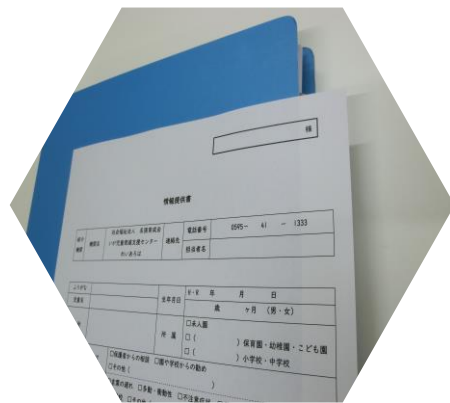
子どもの『好き』な気持ちに寄り添い、『好きなこと』を大切にしています。好きなことを大人と一緒にする楽しさ、友達と一緒にする楽しさを感じながら活動できるようにします。小集団活動では、『みんなとやってみよう!』気持ちを育て、子どもに合わせた方法で共に楽しむ経験を重ねていきます。

れいあろはの支援内容



家族支援

日常生活・子育て・就園・就学・医療・福祉サービスなどの相談を電話や面談にて行っています。



移行支援

保護者の依頼に応じて、今後の生活に必要な施設間移行に向け、情報提供書を作成します。（別途費用必要）



地域支援

地域の保育、教育などの支援を受けることができ、子どもが成長できるよう、関係機関と連携を図っています。



主な行事

夏祭りやクリスマス会など季節に合わせたイベントの実施
親子で遊ぼう会の実施
保護者交流会の実施
卒園イベントの実施



職員の質の向上に関する取り組み



職員研修

訓練

運動発達に関する研修、事例検討会の実施

外部講師による発達研修

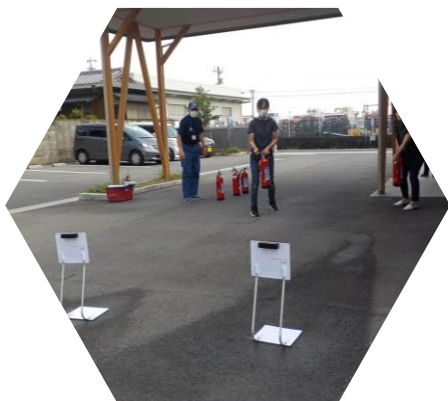
コンプライアンス研修、虐待防止に関する研修

事故防止に関する研修・訓練

感染症に関する研修・訓練、防犯研修・訓練

BCPに関する研修・訓練

など

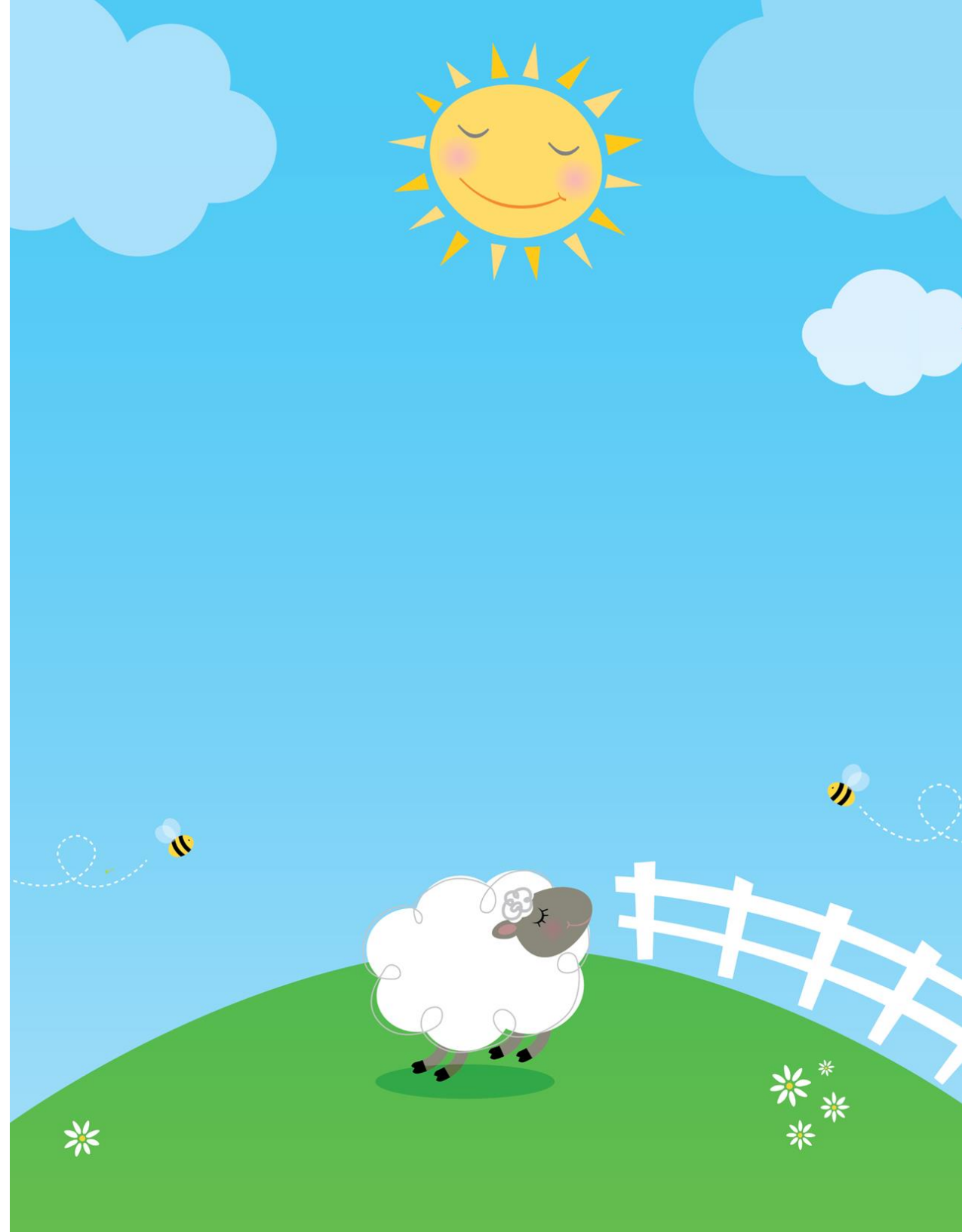


私たちの願い

れいあるはでは、“自立”という言葉の意味を『**self-reliance**』 = 『**自分を信じる**』という意味と考えています。

発達支援の根幹は、何かができるようになることを目指すのではなく、『自己肯定感』を育み、子ども自身が持つ『育つ力』を見守ること、だと考えています。“心が健康な子ども”は、豊かな人生を送っていくと信じています。

私たちは障がいの有無やまた、子どもの抱える背景に関わらず、「心身共に健康に育って欲しい」と願っています。



公表

事業所における自己評価結果

事業所名		れいあろは		公表日 令和 7 年 2 月 17 日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点
環境・ 体制・ 整備・ 運営	1	訪問支援に使用する場合の教員教材は適切であるか。	2	0		現在学期毎の年3回程度の訪問支援を実施しています。お子様の様子に合わせ、希望される訪問回数や時期に支援が実施できるよう、随時相談を受け付けています。
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	0	現在の訪問回数/一人当たりであれば適切であるが頻回な訪問を希望される方が増えると人員不足。 現在も複数の職種スタッフが対応しているがさらに幅広く専門職のスタッフが変更されると良い。	
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2	0		今年度、保護者向け・事業所向け事業所評価を実施し、頂いたご意見を受け止め、業務改善に繋げていきます。様々な研修や勉強会に参加し、支援の幅を広げられるようにしていきます。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	0		
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	0	その都度気付いた事を話し合い改善している。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	2		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2	0	事業所内研修を定期的に実施している。	
適切な 支援の 提供	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	2	0	保護者、訪問先のアセスメントを実施し、現状把握を行っている。訪問先の体制、環境を考慮し、できるだけ具体的な支援計画になるよう検討している。	実際の様子に合わせた支援計画を作成し支援が行われるよう、左記の取り組みを継続していきます。
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2	0		
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	2	0	訪問先に定期的なアセスメントを実施している。計画案に対し意見を頂くようにしている。	アセスメントを基に、保育所(園)、幼稚園での生活をイメージした計画を作成するよう心がけています。今後もアセスメントを通して、保育所(園)、幼稚園でより楽しく過ごせるように共に考えていきます。
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2	0		個別支援計画書は職員間で意見交換しながら作成しています。現状に合わせた計画になっているか確認も行っています。
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	0		
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	2	0		
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2	0	職員間で計画を共有している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	0	職員間で現状の確認をした後、訪問支援を実施している。	訪問前には職員間でお子様の様子を共有し、発達の視点から環境や具体的な支援に繋がれる事柄について検討するようにしています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	0	訪問後には子どもの様子や園と検討したことを、職員間で共有している。	訪問後には様子の共有等振り返りを行うようにしています。
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	2	0		
18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	2	0			
19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2	0	保護者、訪問先と定期的に面談を行なうようにしている。状況に合わせて見直しを実施している。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2	0	児発管が参加している。	
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	0		必要に応じて関係機関を情報共有を行うようにしています。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	0	保護者の希望に添い移行先と情報共有を行なうようにしている。	保護者の希望により、就学先との情報共有を行っています。保護者にも個別支援計画を含め、引継ぎがしやすいよう面談を実施していきます。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2	0	外部の保育や発達研修に参加している。	
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	0	2	今後参加する機会を持てると良いと思う。	
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	2	0		
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	2		家族プログラムについては児童発達支援センターの取り組みとして、保護者交流会、放課後等デイサービス説明会(年長児対象)を行っております。今後保護者のニーズを把握し、企画検討していきます。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2	0		事業内容や利用者負担等は、書面で丁寧に説明するようにしています。また保育所(園)幼稚園についても同様の取り組みを行っております。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	2	0	訪問開始時に訪問先に説明している。	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2	0	保育所訪問個別支援計画を作成する時には、子どもの姿から気持ちを汲み取り、話し合っている。訪問後の面談にて保護者の意向を確認している。	
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	2	0	面談時に様子を伝えながら説明している。	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	2	0	定期的に面談を行なっている。他、随時相談を受け付けている。	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	2	きょうだい同士の交流は実現できていないが必要性はあると思う。	保護者交流会等のイベントはセンターとして開催しております。イベントはより多くの方に参加して頂けるようにしていきます。またきょうだい同士の交流、遊び場の提供等についても検討していきます。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2	0	相談があった時に随時面談を行なうようにしている。	
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	0	2	保育所等訪問支援事業としては通信等の発行はしていない。	センターとしての取り組みをお便り等を通して発信しています。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2	0		
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2	0		
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	2	0	児童発達支援事業と情報共有を行なっており訪問先からの相談を受付、フィードバックを行っている。	
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	2	0		
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	2	0		
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2	0		

	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	2	0	子どもの発達段階を把握し、合わせた支援ができるように心がけている。	訪問日だけでなく、アセスメントシートや面談から普段の様子を知ること努め、支援を行っていきます。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	0	定期的に訓練を実施している。センターの便りに実施状況を報告している。	各種マニュアルを策定し、必要な研修や訓練を実施しています。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	0	上記と同様。	
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2	0	センターとして取り組んでいる。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2	0	定期的に研修を実施している。	定期的に虐待防止研修を実施しています。今後も研修や検討会を実施し、虐待防止に努めていきます。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2	0	そのようなケースはないが身体拘束について研修を行なっている。	

児童発達支援事業所における自己評価表(令和6年度)

	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点、課題や改善すべき点など	改善目標・努力している点	
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	0	・状況に応じた遊び道具の選択や配置に気を付けている。 ・クラスでの遊び方によって部屋が広すぎると感じるがあるので、その都度部屋の入れ替え等を話し合うようにしている。	お子さんの年齢、遊びの様子に合わせたクラス編成を行っています。遊びの内容によって適切な広さで取り組めるよう、朝礼で当日の活動を確認しています。外遊びが好きなお子さんが多いため、今後より楽しく活動できる環境を整えられるよう、検討していきます。	
	2 職員の配置数は適切である	7	0	0	・状況に応じて対応している。 ・部屋に入りにくいお子さんもいるため個別対応が行えるように工夫している。		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	1			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	0	2	・高所を求める子どもが多いため、園庭に高さのある遊び場を作りたいと考えている。		
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	1	・個室で過ごしたいお子さんは訓練室等で過ごせるようにしています。		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか。	5	1	1	・工夫して取り組んだことについて再確認ができていないことがあるので、見直しする必要がある。	毎年行っているガイドラインアンケートから課題抽出を行い、次年度の事業計画を作成しています。3カ月毎に事業計画の進捗状況を確認し、状況に合わせて計画の修正を行っています。今年度はよりタイムリーな業務状況把握が行えるよう毎月実施している職員会議で進捗状況を確認し、随時取り組みの修正や改善を行っています。	
	7 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	1	・面談等で聞いた意見について職員間で検討したり、工夫できることを考えたりできていた。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	0	些細な声や少数の声も拾い上げているが、把握しきれない部分もある。		
	9 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	3			
	10 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	1	5			
	11 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	0	・また事業所内研修で発達研修を受けたい。 ・所長や専門職の方の研修がとても勉強になった。 ・お互いに知っている手遊びや本を紹介し合ったり研修して得た情報を聞いたり伝えたりすることが多くあった。		
	12 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0	3			今年度の支援プログラムはガイドラインと共にHPIに掲載しております。
	13 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0	2	・今年度はこどものニーズを必ず考えて話し合っているから。 ・客観的に分析できていない部分もあると思う。		今年度は会議にてお子様のニーズについて話し合うようにしています。活動の様子からお子様が見ていること、やってみたく思っていることを考えるようにしています。児童発達支援計画は5領域に沿って検討を行っています。また様子に変化があった時の変更や共有を図るようになっていきます。
	14 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	0			
	15 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	2	・共通のアセスメントシートをケース会議で使用している。		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	0	・5領域+家族支援・地域支援で計画を立て支援内容を考えている。		
17 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	1	1	・支援内容や目標などを確認し、支援中意識して行おうとしている ・計画書の見直し・共有が十分でないことがある。			
18 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	1	・保育会議で各クラス毎の活動内容を決めている。 ・全体チームやクラスチームで考えている。	毎月の保育活動会議を通して、チームで話し合い活動プログラムの立案をしています。活動は前年度と同じパターンにならない		

切な支援の提供	19	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	1	・付箋を使ってできるだけ多くの案が出るようにするなど工夫している。	いように工夫や改善を加えて計画するようにしています。また5領域の視点からプログラムを検討するようにしています。
	20	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7	0	0		
	21	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0	・毎日朝礼を行い、役割分担を確認している。	毎日朝礼、振り返りを実施し、保育の流れや支援内容についてを確認しています。振り返りについては実施方法を検討し、有効的な時間になるようにしていきます。
	22	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2	0	・毎日振り返りを行っているが、できていない日もある。その日にできなかった場合、後日声をかけ合っている。できていない日がないように徹底していきたい。 ・クラス内の共有と全体でも方向性に迷った時には相談できる環境ができています。	
	23	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1	0	・記録は毎日記載している。モニタリングの時にも参考にしている。しっかりとっているしモニタリングなどの際にもすぐ参考になっている。 ・まだまだ支援計画と照らし合わせながら記録を記入することが出来ていないように感じる。	記録等を確認しながら定期的にモニタリングを行っています。お子様の様子の変化や成長に合わせて児童発達支援計画の見直しを行っています。
	24	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0		
関係機関や保護者との連携	25	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	1		サービス担当者会議には児童発達管理責任者が参画し、意見交換を行っています。母子保健等の関係者とは随時情報共有等、連携を図っています。
	26	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0	1		
	27	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	0	7	※現在該当なし	
	28	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	0	7	※現在該当なし	
	29	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	2		保護者の希望に応じて、就園先、就学先への引継ぎを行っています。就園先、就学先の方に事業所に来て頂き、様子を見て頂く機会も設けております。
	30	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	3		
	31	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	3		定期的に実施されている発達に係る研修に参加しています。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	5	2		今後地域の子ども関係施設との交流について検討し、より幅広い経験の提供ができるようにしていきます。
	33	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言をうけたり、職員を外部研修に参加させているか。	6	0	1		定期的に実施されている外部研修に参加しています。今後も支援の質も向上を図るため、研鑽に努めます。
	34	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	1	6	・実施されていない	
	35	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	1	5		
	36	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の子どもと活動する機会があるか。	1	4	2		今後地域の子ども関係施設との交流について検討し、より幅広い経験の提供ができるようにしていきます。
	37	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	1	・面談時に保護者と意見交換を行うようにしている。	
38	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0	1	6			
39	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	1		引き続き、具体的且つ丁寧に説明するようにしていきます。	

保護者への説明責任等	40	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	0		
	41	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	0		
	42	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	0		来年度は保護者向け勉強会の実施を企画していきます。保護者交流会は保護者のニーズに合わせてイベントの企画を行います。実施の際は参加しやすい方法を検討します。
	43	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	0	1		・保護者交流会は行なっている。
	44	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	1		
	45	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	0		毎月お便りを発行し、事業所の取り組みを発信しております。緊急時対応等、必要な情報を整理し、コドモンを活用し、情報発信していきます。
	46	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	0		
	47	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	2		保護者に分かりやすく伝えられるよう配慮しています。また翻訳アプリを導入し、伝達できるようにしていきます。
非常時等の対応	48	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5	0		・先日ファミリーサポートのクリスマスコンサートに参加したのですが、そのようなないあろはならではの五感を使った遊びを地域の子どもを招待して開催する日があっていいと思う。
	49	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	0	2		・実施しているが、十分保護者に周知できていない。
	50	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	1		事業所には各マニュアルを整備し、定期的に見直しを行っています。必要な情報についてはコドモンを活用し、保護者に発信していきます。
	51	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	1		医師の指示の元、保護者から依頼を受け服薬支援を行っています。
	52	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	1		医師によるアレルギー除去指示書に基づいて、アレルギー除去食を提供しています。指示書に基づいて栄養士と連携を図り献立を作成しています。食事の提供にあたり、事前に保護者に材料入り献立を確認して頂くと共に複数の職員でチェックを行い、食事を提供しています。
	53	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	2		安全計画に沿って研修、訓練等も行い、職員の安全に関する意識向上に努めています。
	54	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	0	3		
	55	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	2		・保育の一場面をビデオ・写真で確認する機会がありそれをもとに保育の環境を考える機会があった。
56	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	1		事業所内に事故防止委員会を設置し、ヒヤリハットの共有や検討を行っています。今後も安全に活動できる環境を整えていきます。	
57	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	0	4		どのような場合も子ども目線で考えることを意識していきます。また事業所内に虐待防止委員会を設置し、職員の支援の振り返りや確認を行っています。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	いが児童発達支援センターれいあろは		
○保護者評価実施期間	令和6年11月25日		～ 令和6年12月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	83	(回答者数) 56
○従業者評価実施期間	令和6年11月25日		～ 令和6年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な職種の職員がいるため、多角的な視点から子どもたちの発達を捉え、個々に合わせた支援に繋げることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にケース会議を実施し、様々な職種からの意見を取り入れている。 事例検討や勉強会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討、事業所内勉強会を実施し、様々な視点から発達を学ぶ機会を設ける。 ケース会議の実施方法を検討し、学んだことを具体的な支援に活かすための工夫を行う。
2	環境を活かした、豊かな保育活動の実施。	<ul style="list-style-type: none"> 専門職、保育士等、様々な職種が保育活動会議に参加し、活動プログラムの立案を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動プログラムに合わせた環境設定。 さらに活動が広げられるような園庭作り。 保育活動の振り返りの充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に保護者交流会等を実施しているが、企画内容が保護者のニーズに沿っていない 託児の有無等の要因から参加が難しい場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 参加しやすい開催方法の検討 保護者のニーズ把握を行い、保護者交流会やイベントを企画する。 保護者向けの勉強会を実施する。
2	事業所内マニュアルに沿った定期的な訓練や研修、緊急時対応についての保護者周知不足	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に行っている研修や訓練の周知ができていない 緊急時対応について、周知が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルに沿った研修や訓練等の年間計画を作成し、保護者に周知する。 緊急対応を含む様々な情報については、お便りのみの発信ではなく、コドモンを使用した情報提供を行う。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	いが児童発達支援センター れいあろは		
○保護者評価実施期間	令和6年11月25日		～ 令和6年12月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	令和6年11月25日		～ 令和6年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和6年11月25日		～ 令和6年12月13日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職による訪問の実施	・理学療法士が訪問を実施し、お子様の発達把握や発達に沿ったからだ作りに関する助言を行っている。	・保育所(園)、幼稚園でのお子様の活動に沿った具体的な助言を行い、より日常の保育・教育に活かせるようにする。
2	個別支援計画に沿った支援の提供	・保育所(園)、幼稚園への定期的なアセスメントの実施 ・保育所(園)、幼稚園と個別支援計画(案)の共有	・アセスメントシートを有効活用し、お子様の様子や保育、教育の状況がより分かりやすくなるようにする。 ・個別支援計画(案)に対する意見交換方法を工夫する。
3	保護者や保育所(園)、幼稚園の心配事・困り事への共感的な支援	・お子様の様子や具体的な支援について、具体的かつ丁寧に伝えるようにしている。 ・説明の際にはできるだけ専門用語を使用せず、分かりやすい説明を行うようにしている。	・定期的な面談を行い、保護者や保育所(園)、幼稚園から丁寧な聞き取りを行う。 ・保育所(園)、幼稚園での取り組みを知ることで、より共感的な支援ができるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者や保育所(園)、幼稚園のニーズに合わせた訪問回数、時期に訪問支援が行えていない。	・契約者の皆様に同じ頻度での訪問支援が行えるようにしているため、保護者や保育所(園)幼稚園の希望に添えていない可能性がある。	・保護者の希望や保育所(園)、幼稚園でのお子様の様子に合わせた訪問が実施できるよう、回数や訪問希望時期を把握し、訪問支援を実施する。
2	保育所(園)、幼稚園での具体的な取り組みに対し、訪問実施後の状況確認や助言ができていない。	・訪問支援実施後の様子について状況把握する機会が設けられていない。 ・学期毎年3回の訪問になっているため、お子様の様子の変化が十分共有できていない可能性がある。	・訪問実施だけでなく電話で状況確認を行う等、継続的に助言を行えるようにする。 ・アセスメントシートを活用し、共に取り組みを振り返る機会を設ける。

公表

保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名	れいあるは					公表日	令和 7 年 2 月 17 日	
						回収数	30	
	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・体制整備	1 訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。	16	2	0	12		訪問する際には児童発達支援事業と連携を図り、実際の活動写真を使用し、支援状況を共有するようにしています。	
	2 プライバシーに配慮された相談室等が整えられていますか。	29	1	0	0			
	3 事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	30	0	0	0			
	4 保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	26	1	2	0	※無回答 1	訪問回数については、現在学期毎の年3回となっていますが、行事前等、訪問希望時期に合わせた訪問実施ができるようにしていきます。	
適切な支援の提供	5 こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	25	2	1	2			
	6 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	28	1	1	0	言語聴覚士の資格を持つ職員がいればもっと専門性の高い支援が受けられるのではと感じます。		
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されていると思いますか。	29	1	0	0		個別支援計画については保護者のニーズ把握や保育所（園）、幼稚園での様子をアセスメントし、事業所で検討し作成しています。また個別支援計画（案）は保育所（園）、幼稚園と共有し、保育・教育に活かせる内容であるか確認しています。今後もお子さんの様子に合わせた支援を検討できるよう、保育所（園）、幼稚園と連携しながら取り組んでいきます。	
	8 個別支援計画には、訪問先や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	22	1	0	7			
	9 保育所等訪問支援計画には、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	30	0	0	0			
	10 個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	30	0	0	0			
11 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先に配慮した支援が行われていると思いますか。	27	0	0	3				
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	30	0	0	0		事業内容、利用者負担等、個別支援計画の説明は丁寧に分かりやすくお伝えするように心がけていますが、不明な点等ありましたら、お気軽にお声かけ下さい。	
	13 個別支援計画を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	30	0	0	0			
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラムや家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	16	2	1	10	もっとあるとうれしいです。 ※無回答 1	現在、家族支援プログラムについては児童発達支援センターの取り組みとして、保護者交流会、放課後等デイサービス説明会（年長児対象）を行っております。今後保護者のニーズを把握し、企画検討していきます。	
	15 必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達について共通理解ができていると思いますか。	30	0	0	0			
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29	1	0	0			
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	30	0	0	0			
	18 こどもや家族からの相談について、対応の体制が整備されていますか。またそのような場があることについて説明され、迅速かつ適切に対応されていますか。	28	1	0	1		相談は随時、電話、面談等で受け付けております。	
19 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28	1	1	0				

	20	事業所は、訪問先からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	24	0	0	6	話し合いはされていると思いますが具体的な内容についてはあまり聞いたことがない気がします。	訪問ではお子様の様子を観察した後、訪問先担当者話し合いを行い、実際どのような支援が行われているのか、また今後どのようにするのか検討しています。保護者報告面談の際には、状況をより具体的にお伝えしていきます。
	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	26	0	0	4		
	22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	29	1	0	0		
非常時等の対応	23	定期的にお便りやホームページ等で、活動内容や連絡体制等の情報、業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	28	0	0	2		センター発行のお便りやホームページで活動内容や自己評価結果を発信しています。
	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	29	0	0	1		
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	22	0	0	8		
満足度	26	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	29	1	0	0		ありがとうございます。今後もお子様が通所先で楽しくのびのびと活動できるよう、より丁寧で具体的な支援が提供できるように取り組んでいきます。
	27	こどもは訪問支援を嫌がっていると感じますか。	6	1	23	0		
	28	事業所の支援に満足していますか。	29	1	0	0		

公表

訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名

公表日

令和 7 年 2 月 17 日

れいあるは

回収数

18

	チェック項目	はい	どちらとも いえ	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	17	1		<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく伝えてくれますので意識して関わりやすいです。 ・助言・説明が的確で分かりやすく保育園の支援に繋がっていきやすい。 ・助言・説明はとても具体的で分かりやすいためすぐに実践へと繋がっている。 ・支援の方向性が分かりやすく保育に取り入れられ具体的な関わりができます。 ・支援計画が分かりやすく保育に取り入れて実践することができる。 ・個別支援計画を頂き、その子に合った支援が分かりやすい。職員で共有しやすい。 ・子どもの姿に合った具体的な関わり方を分かりやすく説明してくれている。 ・子どもの姿を理解した上での的確なアドバイスを頂いています。 ・文書化することで再度確認ができ、取り入れやすく、分かりやすいです。 	保育園（所）、幼稚園の環境や体制に合わせ、具体的な支援について検討ができるよう心がけています。今後も保護者同意の基、個別支援計画を共有することで支援内容を可視化し、より分かりやすい助言や説明に努めます。
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	15	3		<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識を聞かせてもらうことでインクルーシブ保育の理解にもなっている。 ・専門的な知識や援助方法を教えて頂けるのでとても勉強になる。 ・専門性も高く信頼しています。 ・発達視点からの支援方法がとても専門的で分かりやすい。 ・専門的な視点から子どもの発達を見て頂けるのでとても勉強になります。 ・質問にも丁寧に対応して頂いています。 ・知識が豊富で勉強させてもらうことがある。 ・保育士目線からではなく、違う角度から子どもの姿を捉えてくれていると感じます。 	お子様が見せる行動を発達の視点から考え、検討の話し合いができるようにしています。実際の保育・教育現場で支援を考える上で、有効的な助言となるよう、知識・技術の幅を広げ、より良い支援が行えるようにしていきます。
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	17	1		<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく丁寧に答えてくれます。 ・子どもだけでなく保護者さんの思いも聞かせてもらっている（面談時など） ・回答がとても分かりやすいので職員への伝達もしやすい。 ・支援の仕方や子どもの姿の変化等、悩んでいる事へも回答頂けます。 ・いつも細かいことまで丁寧に答えて教えて頂くことができる。 ・以前個別に質問した際回答頂き参考になりました。 ・質問に対してはいつも丁寧に回答して下さっている。 ・保育士の困り事にも適切なアドバイスを頂いています。 	お子様の様子や保護者の希望、保育所（園）のアセスメントシートから、困り事を汲み取り、様子に合わせた助言ができるように検討していきます。

4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	14	4	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか解消とまではいきませんが聞いてもらうことで軽減されます。 ・困り事がすぐに解決するのは根本的に難しいが視点を変えるきっかけにはなると思う。 ・本児の様子など情報共有し関わり方等について職員間で周知しやすくなりました。 ・園での姿、れいあろはでの姿を共有することができる。保育園での支援につながる。 ・気になる行動の理解から子どもも理解が深まりより丁寧に子どもの姿を見ることに繋がっている。 ・同じ視点で子どもを見ていけるのがいいです。 ・その子によって違うので軽減されることもあればそうでない時もあります。 ・適切に具体的方法を示して頂けるので安心できる。 ・具体的で分かりやすいと思います。 ・れいあろはでの姿や対応方法を教えて頂けるのでとても参考になる。 ・アドバイスを聞き職員間で対応など共有することができています。 ・互いに共感して下さっていたのでとても気が楽になりました。 ・訪問してくれている時と普段の様子が違うことが多い。 ・軽減され、安心して保育でき、「どうすれば…」という心も不安も減りました。 	<p>児童発達支援事業を連携を図り、現状の把握や具体的な支援方法等の共有ができるようにしています。アセスメントシートを活用することで、保育所（園）、幼稚園での様子を具体的に捉えた上で、訪問支援を実施できるように心がけています。</p>
5	事業所からの支援に満足していますか。	15	3	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの情報を共有できることがありがたいです。 ・情報共有して頂けることや様々な支援にととても満足している。 ・相談しやすく頼りにしています。 ・子どもの発達や姿を共有しながら共に支援していけることはとても良いと思う。 ・毎日の姿と見てもらった時の姿では分かってもらえないこともある。 ・これからも途切れなく連携して、支援計画を進める必要性があると思いました。 	<p>訪問日当日だけでなく日常生活をイメージし、その子の発達に合わせた保育・教育が受けられるよう、助言や説明に努めます。</p>
<p>その他のご意見</p>					
<ul style="list-style-type: none"> ・専門的知識と技術で療育を受けながら保育園で過ごす子ども達それぞれの成長を感じています。成長過程において課題や関わり方も変わってくるので、都度連携して子どもの育ちを支援していきたいと思います。 ・アセスメントシートの提出は子どもの課題や発達を振り返りながら作成できることで、よりその子を見ていけることに繋がります。個別支援計画書も頂け、より子どもへの関わり方が明確に示され保育できます。今後も共通理解を深め発達について学んでいきたいと思いますのでご協力お願いします。 ・子どもの課題、困りごとを保育と違う視点からアドバイス頂けると保育所での困り事解消に繋がるのでこれからもよろしくお願いします。 ・私たちの気付かない視点からのアドバイスや方向性を教えて頂けることで保育所の職員の資質向上につながります。そして安心して保育に取り組めることがとてもありがたいです。 ・定期的な訪問頂き専門の立場から普段の関わりの意味付けやアドバイスが聞けることで今後の関わりに繋げることができています。園内の職員以外の方と悩みなど共有できることもとてもありがたいです。 ・園に訪問して頂けることでれいあろはでの姿や園の様子など情報を共有しアドバイスを頂けることで対象児がより園で安心して過ごすことができたり保育者がどう支援していくかやより良い関わりができたりしています。 ・今その子の落ち着く場所を見つけようと色々試してみるのがなかなかよい方法が見つからず悩んでいます。また相談させて下さい。 					